

瀬田川プランクトン調査結果速報

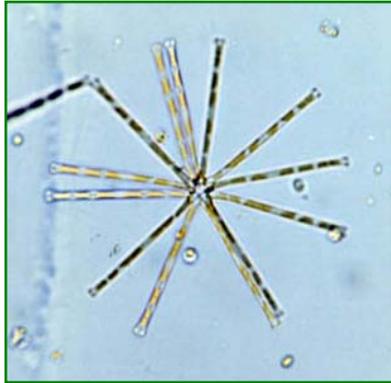
～第3報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

平成22年4月19日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Asterionella formosa
(ホシガタケイソウ)
珪藻綱

4～32個の細胞が端で接着し、ホシガタの群体を作る。細胞の殻面を見ると(通常は殻環面が見えている)両端が丸くなった長い棒形をしている。琵琶湖では以前から多く見られる種類である。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris
(ハネウデワムシ)
輪虫類

体は四角く、4カ所に鳥の羽状の付属物を有する。
前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンでは、珪藻に属するホシガタケイソウ(*Asterionella formosa*)が優占種となった。体積で見ると褐色鞭毛藻に属するクリプトモナス(*Cryptomonas* sp.)が優占種であった。褐色鞭毛藻類が総体積の約54%、緑藻類が約32%を占めた。珪藻類は大きく減少した(総体積の約13%)。動物プランクトンでは、ハネウデワムシ(*Polyarthra vulgaris*)が60個体/Lで優占種となった。ピコ植物プランクトンは引き続き少なく、輝橙色のものが210細胞/ml計数され、深赤色のものは見られなかった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/L)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	60

第 2 優 占 種		個体数 (個体/L)
繊毛虫類	<i>Stokesia vernalis</i>	50

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

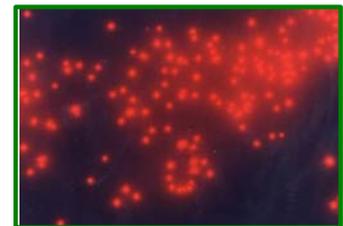
(2) 植物プランクトン

平成22年4月19日

第3報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(黄鞭) <i>Mallomonas tonsurata</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	20		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	340	◎	
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	300	○	◎
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	270		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	80		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	3		
(緑) <i>Cosmocladium constrictum</i>	120		○
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	10	0.8	0.9
(珪) 珪藻綱	390	32.7	12.9
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	570	47.8	53.9
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	223	18.7	32.3
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1193	総体積 (μm^3)	1.03E+06
種類数	11		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	4月19日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	210

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ($1\mu\text{ml}$ は 1mm の $1,000$ 分の 1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。